

技術委員会の 平成24年度活動報告と平成25年度活動方針案

2013.6.13

オープンデータ流通推進コンソーシアム
技術委員会主査 越塚 登



1. 平成24年度活動報告 (1) 概要

日付	タイトル	概要
2012.10.24	第1回技術委員会	本委員会の運営とミッションについて 他
2013.01.09	第2回技術委員会	技術委員会の論点 ポキャブラリに関する先進動向 他
2013.01.28	第3回技術委員会	オープンデータ化のためのデータ作成に関する 技術ガイド NIEM等海外調査報告 国際標準化動向調査 他
2013.03.21	第3回電子行政オープンデータ 実務者会議	技術委員会の取組と提言について報告。 オープンデータ化する際のデータの形式に関する 技術的な要求事項や実現手順をまとめた技術 ガイド案、オープンデータ化のためのCSV形式 データの規格案や情報流通連携基盤システムの 外部仕様書案をまとめたコンソーシアム規格案、 これらを踏まえたオープンデータの技術的観点 からの提言を発表。
2013.06.03	第4回技術委員会	情報流通連携基盤システム外部仕様書に関する ケーススタディ報告 平成24年度技術委員会報告書について 平成25年度活動方針について 他

1. 平成24年度活動報告 (2) 成果

- ▶ 技術委員会における活動成果は以下の通り。
 - ▶ Call for Commentを求められる技術文書の作成
 1. オープンデータ化のためのデータ作成に関する技術ガイド^(*1)
 2. オープンデータ化のためのCSV形式データ規格^(*2)
 3. 情報流通連携基盤システム外部仕様書(平成24年度版)^(*3)
 - ▶ 上記のうち1.と2.について、「電子行政オープンデータ実務者会議」へインプット
 1. 6月7日までパブリックコメントが募集されていた、電子行政オープンデータ実務者会議の「数値(表)、文章、地理空間情報のデータ作成に当たっての留意事項(ガイドライン別添)」^(*4)は、本委員会がインプットした文書がもとになっている。

(*1) 第3回技術委員会資料3-4参照 <http://www.opendata.gr.jp/committee/technical/documents.php>

(*2) 第3回技術委員会資料3-6参照 <http://www.opendata.gr.jp/committee/technical/documents.php>

(*3) 第4回技術委員会資料2-4参照 <http://www.opendata.gr.jp/committee/technical/documents.php>

(*4) <http://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/info/h250524-g2.pdf>

出典: 第4回技術委員会資料

参考：電子行政オープンデータ実務者会議への提言（技術関係）

- ▶ **技術委員会は、これまでの検討をもとに、以下を提言する。先行省庁での試行をふまえつつ、実務者会議におけるオープンデータ推進に向けたルール整備の参考としていただきたい。**
 1. 表形式データや文書形式データ、地理情報データ、リアルタイムデータをオープンデータ化する際のデータ構造・形式に、技術委員会で検討した技術ガイド案、および規格書案を参考にしていきたい。
 2. 政府がオープンデータを公開するAPIや高度なデータ形式について検討する際には、技術委員会で検討した平成24年度版「情報流通連携基盤の外部仕様書（第1版）（案）」を参考にしていきたい。
 3. 政府の保有する情報をオープンデータ化するためには、フォーマットに関するルールのほかにデータ公開ポリシー作成や、データの信頼性確保のためのガイド制定が必要である。また、マニュアルやツール・テンプレートの整備、職員への研修などの周辺環境を整備する必要がある。これらの点についても並行して検討していきたい。

出典：平成25年3月21日 第3回電子行政オープンデータ実務者会議「オープンデータ流通推進コンソーシアムの取組と提言」
(注) 技術ガイド案、規格書案、および外部仕様書案は、今後Call for Commentによるコメントを得て精査を行う。

1. 平成24年度活動報告 (3) 実施事項

- ▶ 技術委員会において、平成24年度は下記項目を実施した。
 - ▶ 既存のオープンデータ関連技術の調査・整理
 - ▶ 世の中に既に存在している各種データ形式やAPI、および国際的な事例について調査を行い、それらの利用指針や課題を抽出した。
 - データを公開する要素技術は整っているが、具体的な指針やベストプラクティスが確立されていない。
 - ボキャブラリやコード、IDや識別子の運用など、上位層で規定を整備する必要がある。
 - ▶ 技術文書の作成
 - ▶ 上記分析に基づき、データを公開・利用するための指針、上位層での規定案として、Call for Commentを求められる技術文書を作成した。
 1. オープンデータ化のためのデータ作成に関する技術ガイド
 - 幅広いアプリケーションやサービスが有効に利活用するために、政府自治体、企業等、さまざまな組織が保持するデータをオープンデータ化するための技術的な要求事項、およびそれを実現するための手順を示したガイド。
 2. オープンデータ化のためのCSV形式データ規格
 - 上記技術ガイドを満たすデータ形式の具体例としてCSV形式を取り上げ、データを記述する際のルールやフォーマットを示した規格。
 3. 情報流通連携基盤システム外部仕様書(平成24年度版)
 - 公開データを利用したシステム構築手法の1つを示す、SPARQL規格に基づくAPIとRESTベースのAPI、およびボキャブラリ群からなる仕様書。
 - 平成24年度はこの外部仕様書を情報流通連携基盤システム実証事業向けに提供し、ケーススタディを実施。

2. 技術委員会の平成25年度活動方針案

(1) 活動方針 (案)

- ① 24年度の成果を精査し、普及させるための活動を実施する。
- ② 国際化・標準化関連について、実施策の検討や具体的活動を実施する。
- ③ データガバナンス委員会や利活用・普及委員会との連携を今までよりも密にし、データの利用希望者、データの保有者のニーズに沿った検討を実施する。

(2) 主な活動 (案)

タイトル	概要
24年度成果の精査と普及	平成24年度に作成したガイドや規格案のCall for Commentsを実施し、得られたコメントの反映等を行う。さらに、ポキャブラリを共有（登録・参照）する仕組みや外部仕様書のプロファイル化等を検討する。ガイド・規格を普及させるための体制や周辺ツール整備として、規格やサービスを維持・メンテナンスする組織体制について検討する。また、国内外を問わず、オープンデータに関する取組調査や技術的な意見交換を実施することにより、普及のためのコミュニティ形成を目指す。
国際化・標準化関連活動	国際的な舞台に日本の取り組みを紹介し、プロモーションを実施する。さらに、上記精査により有用と判断された部分については、標準化団体やコミュニティにコミットする、コンソーシアム内でコミュニティを形成して提案する、等の対応を行う。また、フロントランナーとなれる分野を発掘し、そこから標準化活動に取り組む。